

全国サミットの夢

和歌山県みなべ町への初の公式訪問となった7月初旬は、梅の収穫が終盤を迎えていて、生産量日本一を誇る梅干しの漬け込みで町中が梅の香りに包まれていました。紀伊山地が太平洋に滑り込む急峻な斜面に、連綿と続く梅の木々。転作奨励により田も梅に置き換わり、まさに見渡す限りの梅園の中にある町でした。

この「紀州南高梅」発祥の町と、コシヒカリの里の小学校の交流が縁となり、平成28年には当市と「日本の食文化推進連携協定」を結んでいます。両市町の首都圏での販売促進イベントには両市町の児童も参加し、毎年みなべ町からは見事な梅干しが届き、当方からは米をお送りして、両市町の学校給食で振る舞われるなど、温かい交流が続いています。

このたびの訪問は、これまでの御礼と表敬という目的のほかに、私は将来に向け、新たな道を探りたい、ざっくばらんにみなべ町のみなさんと話し合いたいという思いが強かったのです。南魚沼市は、ふるさと納税で昨年度ついに県内

1位（全国1,788自治体中、22位）となり、米部門では間違いなく全国トップに。当市が全国最高ブランドの梅の町と何ができるだろうか。

「日の丸弁当、おにぎりの中核はまずはできあがる。サミット開催はどうだろうか。基本の塩、その産地は？海苔も要る。鮭に昆布、具材は全国区だ。G7の開催は確実。筋子やイクラ、かつお節やしょう油も。おこわとなれば栗、ほかには？G20の開催も視野に入るかも。それぞれが全国一の大産地といえども、おそらく抱えているであろう後継者問題。この交流に各地の青年農業者が集い、互いに刺激を受けながらも発信に協働し合う。子どもたちの交流もこれまででない視野で。そんな光景を生み出せないか」

積年の思いに大風呂敷を広げる私でしたが、みなべ町のみなさんとの意見交換は、時間を忘れてしまうほどに。トップの誇りをかけて！

シリーズ
第113回

国際大学留学生

お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

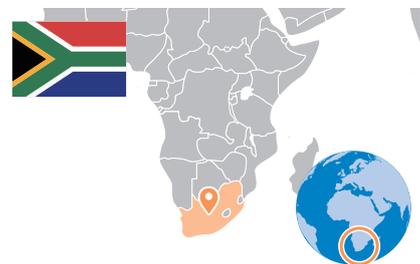
南アフリカ共和国 テベロ モハレさん



私の国はこんなところ

南アフリカは民主化されて28年目の若い国です。人種の多様性からレインボーネーション（虹の国）と称されています。11の公用語、9つの州、7つの生物群系（サバンナ、低木密生林、草原、森林、灌木植生地域、低木乾燥地林、多肉植物乾燥林）、4つの民族（黒人、白人、混血、アジア系）、3つの首都（プレトリア、ブルームフォンテン、ケープタウン）、2つの海（インド洋と大西洋）があります。また、国土内には内陸国のレソト王国があります。

南アフリカ人のだれもが愛してやまない伝統料理は「ブライ」と呼ばれる南アフリカ風バーベキューです。



南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼では豊かな自然の中にも発見がありました。夏には山の隠れ滝を見つけたり、川で泳いだり、大きなスイカをたったの500円で買ったことまで、南魚沼は爽やかで、まるでオアシスのようでした。

編集後記

地元の祭りに出かけました。新型コロナウイルスの影響で大幅に規模を縮小して開催していますが、伝統行事を継承していくためには地域の人々の協力がとても大事だと感じました。みんなで大切な伝統をつなぎ、いつの日かまた盛大な祭りの復活を望んでいます。

残暑が続く予報となっています。体調管理には十分お気を付けてください。(H.K)

今月の表紙

7月30日(土)、第18回南魚沼市ナイトウォークが開催されました。当日は気温が高く暑い夜でしたが、八色の森公園を出発し、国道17号浦佐バイパスや普光寺など浦佐地区を巡る9キロのコースに560人程の参加者が汗を流し、ゴールでは達成感にあふれた笑顔が見られました。

市民の動き 令和4年7月末日現在 ()は対前月比

●人口 54,061人(-128) / 男26,467人(-57) 女27,594人(-71) ●世帯数 20,112戸(-30)